

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成23年3月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成23年2月分(平成23年1月31日～平成23年2月27日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	9,474	20.60	9.27	↗	10	百日咳	27	0.09	0.04	↗
2	RSウイルス感染症	141	0.49	0.71	↓	11	ヘルパンギーナ	7	0.02	0.03	
3	咽頭結膜熱	192	0.67	0.35	↘	12	流行性耳下腺炎	296	1.03	0.69	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	774	2.69	1.64	↗	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.03	
5	感染性胃腸炎	1,995	6.93	11.26	↘	14	流行性角結膜炎	45	0.59	0.95	↘
6	水痘	337	1.17	1.53	↘	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	34	0.12	0.33	↗	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.03	
8	伝染性紅斑	74	0.26	0.15	↗	17	マイコプラズマ肺炎	13	0.15	0.18	→
9	突発性発しん	130	0.45	0.53	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成23年2月分(2月1日～2月28日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	46	2.09	2.12	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	127	6.05	5.05	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	17	0.77	0.63	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	30	1.43	1.41	↗
21	尖圭コンジローマ	15	0.68	0.49	↗	25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	-	
22	淋菌感染症	23	1.05	0.77	↘	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.08	

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急減疾患 RSウイルス感染症(288件 141件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178(今月は177)の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	22	21	177

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	54	結核(54)〔西部保健所(4),西部東保健所(2),東部保健所(20),北部保健所(1),広島市保健所(15),呉市保健所(7),福山市保健所(5)〕
三類	0	発生なし
四類	3	A型肝炎(2)〔呉市保健所〕,レジオネラ症(1)〔西部保健所〕
五類全数	16	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所〕,ウイルス性肝炎(1) B型(広島市保健所),劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔呉市保健所〕,後天性免疫不全症候群(5)〔広島市保健所(3),福山市保健所(2)〕,風しん(1)〔広島市保健所〕,麻しん(6)〔西部保健所(3),広島市保健所(3)〕

3 一般情報

(1) インフルエンザの流行状況について

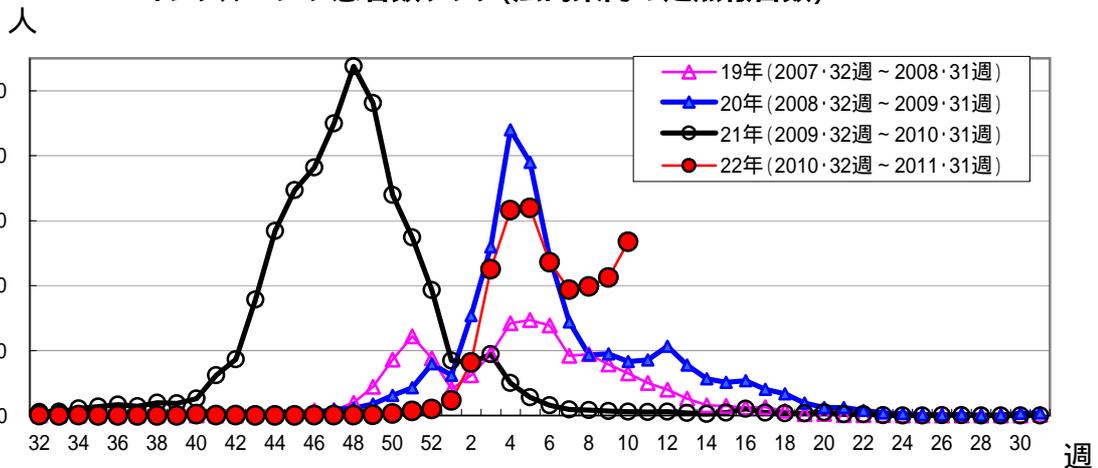
県では、平成23年2月2日に県内にインフルエンザ警報を発令しました。その後、感染症発生動向調査によると定点医療機関からの患者報告数は、第5週(1月31日～2月6日)をピークに第6週から減少していましたが、第8週(2月21日～27日)からは、再び増加に転じました。

集団かぜによる学級閉鎖等も、第8週に今シーズン最も多い172件の報告があり、引き続き流行状態は続いているものと考えられることから、次の点に注意していただき、感染予防を心がけてください。

インフルエンザを予防するための注意点

- ・ 流水と石けんで手洗いを励行し、外出から帰ったときは、“うがい”をしましょう。
 - ・ 睡眠をしっかりととり、偏食せずバランスのとれた食事を心がけ、体力をつけましょう。
 - ・ 咳エチケットを守りましょう。
 - ・ 室内は、加湿器などを使って、適度な湿度(50%～60%)を保ちましょう。
 - ・ なるべく人が集まる場所への外出は避けましょう。
- 特に基礎疾患(腎臓疾患,心臓疾患,呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦,高齢者,乳幼児は合併症を起こしたり,重症化する恐れがありますので注意しましょう。

インフルエンザ患者数グラフ(広島県内の定点報告数)



(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、冬季及び春～初夏の2つのピークがみられ、学童期の小児に最も多く発生する感染症ですが、感染症発生動向調査による定点医療機関からの患者報告数では、1月の437人から2月には774人と大きく増加しました。特に北部保健所管内(三次市,庄原市)では、第7週(2月14日～20日)に定点当たり26.25(患者数105人),第10週(3月7日～13日)に定点当たり51.75(患者数207人)となり、国立感染症研究所が示している警報レベル(定点当たり8.0)を大きく上回っていることから、今後注意が必要です。

病原体	A群溶血性レンサ球菌 (この病原体は、咽頭炎だけでなく、いろいろな病気を引き起こします。)
症状	感染すると通常2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化し、「猩紅熱(しょうこうねつ)」に移行して軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。
治療と予防	レンサ球菌には、抗菌薬が有効なので、お子さんが熱を出して扁桃腺を腫らした場合は、単なる「喉痛」と片付けず、かかり付けの先生を受診されることをお勧めします。 また、この病気は、患者の分泌物等からの飛沫やそれらに汚染された器物から感染しますので、感染症予防の基本である「手洗い」と「うがい」の励行を心がけてください。